

滋賀県病院協会報

■ 会長再任のご挨拶 ■



一般社団法人
滋賀県病院協会
会長 片岡 慶正

今般、5月25日開催の当協会理事会および総会にて、会長再任のご指名を賜りました。昨年は長尾前会長のご退職に伴うピンチヒッター的就任でしたが、医療を取り巻く環境変化が激動的な昨今、今回の会長就任は浅才非学の身には重責に押しつぶされそうな感です。あらためて感謝申し上げます。ともに協力して協会の円滑な運営はもとより滋賀県の健康医療福祉のさらなる充実・発展に渾身の努力をさせていただきます。所存です。

まずは、熊本地震で被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。災害が少ない滋賀県にあって日常の医療が行える「あたりまえ」に感謝しつつ、学びを活かした備えの再点検と強化の必要性を痛感するところです。先日、伊勢志摩サミットが無事終了しましたが、その華々しさの後ろに見



発行所
滋賀県病院協会
一般社団法人
大津市京町四丁目3-28
(滋賀県厚生会館)
TEL 077-525-7525
http://sbk.co-site.jp/
発行人 会長 片岡 慶正

え隠れする先行き不透明感と重苦しさは如何ともしがたいものです。消費税10%延期決定による抜本的制度改革の先送り、病院経営の一時的安眠をもたらすのか、社会保障充実への道そのものが混乱するの、今後も注視しなければなりません。今年も医療界にとって間違いなくエポックメイキングな年度となります。この3月には滋賀県地域医療構想が策定され、4月からは新たな診療報酬改定がスタートしました。医療構想が策定され、4月からは新たな診療報酬改定がスタートしました。医療構想が策定され、4月からは新たな診療報酬改定がスタートしました。

ローチ転換の認識も重要となってきました。地域における医療機関も自らの将来ビジョンに対する「自主性」が強調されています。「効率的」という文言が、「効率的、効果的かつ適正化」という表現に変化している点に敏感でなければなりません。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。「夢や希望に満ちた豊かさ実感・滋賀」そして「住み心地日本一の滋賀」を支える医療の充実には、患者を中心に置いた視点での連携も重要であり、安心、安全、納得の医療にはICTを活用した医療情報の共有はますます推進させなければなりません。県内でのICTネットワークの統合的充実と将来的発展に当協会も積極的にかかわっていかねば幸いです。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。「夢や希望に満ちた豊かさ実感・滋賀」そして「住み心地日本一の滋賀」を支える医療の充実には、患者を中心に置いた視点での連携も重要であり、安心、安全、納得の医療にはICTを活用した医療情報の共有はますます推進させなければなりません。県内でのICTネットワークの統合的充実と将来的発展に当協会も積極的にかかわっていかねば幸いです。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。「夢や希望に満ちた豊かさ実感・滋賀」そして「住み心地日本一の滋賀」を支える医療の充実には、患者を中心に置いた視点での連携も重要であり、安心、安全、納得の医療にはICTを活用した医療情報の共有はますます推進させなければなりません。県内でのICTネットワークの統合的充実と将来的発展に当協会も積極的にかかわっていかねば幸いです。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。「夢や希望に満ちた豊かさ実感・滋賀」そして「住み心地日本一の滋賀」を支える医療の充実には、患者を中心に置いた視点での連携も重要であり、安心、安全、納得の医療にはICTを活用した医療情報の共有はますます推進させなければなりません。県内でのICTネットワークの統合的充実と将来的発展に当協会も積極的にかかわっていかねば幸いです。

平成28年度一般社団法人滋賀県病院協会通常総会

滋賀県健康医療福祉部長 藤本 武司

本日、平成28年度一般社団法人滋賀県病院協会通常総会が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

病院協会の皆様方には、日頃より、本県の保健・医療・福祉行政に格別の御支援と御協力を賜っており、誠にありがとうございます。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

平成28年度病院協会通常総会開催

平成28年5月25日(水)

一般社団法人滋賀県病院協会の通常総会は、平成28年5月25日(水)にびわ湖大津プリンスホテルで開催されました。

開会にあたり、事務局より定足数を報告され、会員57病院中57病院出席(委任状13名を含む)で定款第17条に定める過半数に達し本総会が成立している旨を告げられた。

議題には、高山博史氏(高島市市民病院長)、議事録署名人名には、青木治亮氏(水口病院長)と森田豊氏(マキノ病院長)が選出され、事務局長の詳細な説明、来見監事の監

今後とも地域の医療福祉連携において重要な役割を果たしていただくことを期待しております。

本県では、この構想の基本目標である「誰もが状態に応じて適切な場所に必要なサービスを受けられます」。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が強調される共生社会と医療の将来ビジョンに向けては、情報共有や人間力」が大きなキーワードとなります。

正味財産増減計算書(案)および財産目録(案)

3. 監査報告(来見監事報告)

第2号議案 定款の変更について(理事1名の増員)

第3号議案 一般社団法人滋賀県病院協会役員

報告第1号 会長及び副会長の選定結果について

報告第2号 平成28年度事業計画について

一般社団法人滋賀県病院協会役員名簿

(役員期間 自：平成28年 5 月25日～至：平成30年 5 月総会時まで)

役 職	所 属	氏 名	備 考
会 長	大津市民病院長	片岡 慶正	総括
副会長	長浜赤十字病院長	濱上 洋	総務・厚生、人権担当、救急、政策・医療経営改善、ICT（医療情報ネット）
〃	大津赤十字病院長	石川 浩三	医療安全（医療事故・医事紛争）、看護・メディカル・スタッフ、臨床研修担当、危機管理・感染対策・災害医療
理 事	セフィロト病院長	畑下 嘉之	表彰選考、政策・医療経営改善、医療安全（医療事故・医事紛争）、調査
〃	ヴォーリス記念病院長	周防 正史	地域医療連携、総務・厚生、人権担当、調査
〃	日野記念病院長	花澤 一芳	救急、医療・介護保険、医療安全（医療事故・医事紛争）、ICT担当（医療情報ネット）
〃	滋賀八幡病院長	由利 和雄	表彰選考、医療・介護保険、調査、地域医療連携
〃	琵琶湖病院長	石田 展弥	総務・厚生、人権担当、看護・メディカル・スタッフ、表彰選考
〃	長浜市立湖北病院長	伊達 成基	医療・介護保険、総務・厚生、人権担当、政策・医療経営改善
〃	豊郷病院長	髙本 尚慶	広報、表彰選考、医療安全（医療事故・医事紛争）、学術
〃	高島市民病院長	高山 博史	人権担当、総務・厚生、学術、危機管理・感染対策・災害医療
〃	彦根市立病院長	金子 隆昭	危機管理・感染対策・災害医療、政策・医療経営改善、救急、広報、機能評価
〃	水口病院長	青木 治亮	看護・メディカル・スタッフ、ICT担当（医療情報ネット）、地域医療連携、危機管理・感染対策・災害医療
〃	公立甲賀病院長	清水 和也	臨床研修、政策・医療経営改善、救急、臨床研修担当、地域医療連携
〃	近江八幡市立総合医療センター病院長	宮下 浩明	救急、医療・介護保険、学術、広報、臨床研修、機能評価
〃	草津総合病院長	平野 正満	看護・メディカル・スタッフ、救急、学術、臨床研修
〃	守山市民病院長	野々村和男	看護・メディカル・スタッフ、医療安全（医療事故・医事紛争）、地域医療連携、危機管理・感染対策・災害医療
〃	滋賀県立成人病センター病院長	宮地 良樹	調査、ICT担当（医療情報ネット）、政策・医療経営改善、学術
〃	友仁山崎病院長	高橋 雅士	総務・厚生、人権担当、広報、地域医療連携
〃	済生会滋賀県病院長	三木 恒治	政策・医療経営改善、救急、臨床研修、危機管理・感染対策・災害医療
〃	滋賀医科大学医学部附属病院長	松末 吉隆	政策・医療経営改善、医療安全（医療事故・医事紛争）、臨床研修、地域医療連携
監 事	独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院長	来見 良誠	総務・厚生、人権担当、医療・介護保険、学術、ICT担当（医療情報ネット）
〃	市立長浜病院長	神田 雄史	表彰選考、医療安全（医療事故・医事紛争）、広報、臨床研修担当
〃	税理士 横井昭次事務所長	横井 昭次	
外部監事			

私の主張

癌局所療法（Local Therapy、F T）の特徴は、癌病巣のみを治療し周囲の健常組織を温存することによって、癌の制御とともに臓器の機能を温存し、低侵襲治療として治療に伴う合併症を軽減し、患者さんの治療に伴うQOLを高めることにあるといえます。近年F Tが注目されてきたのは、患者さんの意識改革による機能温存のニーズの高まり、超高齢化社会の到来に伴う様々な合併症を持つ、いわゆる根治的手術が困難なハイリスク症例の増加などがある。さらに様々なテクニ



癌局所療法のおすすめ

済生会滋賀県病院長 三木 恒治

としては、広義ではロボット等による腎部分切除や胃癌などのEMR（内視鏡的粘膜下切除術）などの手術療法、小線源治療、IMRT、粒子線治療などの放射線療法、TAEやTACEなどの塞栓療法、そして狭義の意としては、広義ではロボット等による腎部分切除や胃癌などのEMR（内視鏡的粘膜下切除術）など、分野で技術革新がめざましいものがある。一方CT、MRIの画像解析の進歩により、以前は穿孔できなかったような病巣拡大が可能となってきた。また動注塞栓療法もsuper selectiveなTAEが可能となり、より病巣のみの塞栓療法が可能となり、原発巣のみならず転移巣にも適応が拡大されている。日本では健保適応のこ

味のラジオ波（RFA）や凍結療法などのAblationがあげられる。Ablationのエナジーソースとしては、ラジオ波治療、凍結療法、レーザー照射、光線力学的治療（ホトダイナミック療法）、高密度焦点式超音波（HIFU）、マイクロ波（Microwave）、サイバーナイフ、粒子線治療、さらには中性子捕捉療法（BNCT）なども導入され、適応の幅が広がっている。一方で、F Tは肝がんを除いてまだ一般的ではないが、欧米では各種のがん治療に用いられています。健保ですでに小径腎腫瘍に対する凍結療法が認可されているが、先進医療としてRFAも期待されている。欧米の第一選択になっているのが、今後全麻による手術療法の代替療法として、ますます癌の局所療法は発展すると考えられる。例えば小径腎癌は凍結療法等で手術しなくても良い時代が来るかもしれない。特に超高齢者ではその可能性が高いと思われる。

滋賀県病院協会事務長部会役員名簿

(役員期間 自：平成28年 5 月25日～至：平成30年 5 月総会時まで)

役 職 名	所属病院名	所属病院役職名	氏 名
部 会 長	大津市民病院	事務局長	北 村 善 隆
副 部 会 長	長浜赤十字病院	事務部長	藤 川 剛
〃	大津赤十字病院	事務部長	辻 勝
委 員	セフィロト病院	事務部長	太 田 直 也
〃	ヴォーリス記念病院	事務長	澤 谷 久 枝
〃	日野記念病院	事務長	鶴 飼 猪 一郎
〃	滋賀八幡病院	事務局長	高 田 治 朗
〃	琵琶湖病院	事務局長	見 本 登
〃	長浜市立湖北病院	事務局長	西 川 昇
〃	豊郷病院	事務部長	川 村 宏
〃	高島市民病院	事務部長	吹 田 嘉 幸
〃	彦根市立病院	事務局長	山 口 昌 宏
〃	水口病院	事務長	崎 山 明 生
〃	公立甲賀病院	事務部長	谷 川 敬 二
〃	近江八幡市立総合医療センター	事務長	奥 山 文市郎
〃	草津総合病院	事務長代行	黒 田 吉 則
〃	守山市民病院	事務長	旭 正 人
〃	滋賀県立成人病センター	事務局長	中 井 清
〃	友仁山崎病院	事務長	中 岡 克 宏
〃	済生会滋賀県病院	事務部長	青 木 弘 和
〃	滋賀医科大学医学部附属病院	副病院長 経営・事務総括	辻 谷 重 宏

新役員の紹介

理事に就任して

三木恒治

理事に就任して

松末吉隆

監事に就任して

神田雄史

看護部長部会

部会長に就任して

部会長 松並睦美



このたび滋賀県病院協会の理事に就任させていただきましたことになりました。地域医療構想が策定されようとする中で、バランスのとれた医療機能の分化と連携を構築する上で病院協会の役目はますます重要となります。ご指導をいただきながら微力ではありますが、お役に立てるよう務めさせていただきますので、よろしくお願致します。（済生会滋賀県病院長）



この度、県内唯一の医師養成機関として滋賀県病院協会の理事に指名していただきました。卒前卒後のシームレスな医師養成や専門医制度が議論されている中、卒後研修において貢献できれば幸いです。また滋賀県医師キャリアサポートセンターの運営を通じて病院協会の皆様のご協力を頂きながら医師の資質の向上と医師不足の解消に努め、病院協会の発展に少しでも貢献できるよう努めますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。（市立長浜病院長）



この度、監事に選任されました。私は、本年四月に市立長浜病院の院長に就任し、院内外の新しい環境に対応すべく、日々、努力を重ねております。診療報酬改定、地域医療構想、新専門医制度などの問題が山積する中で、滋賀県病院協会の活動に少しでも役立てれば幸いです。皆様のご指導・鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。（市立長浜病院長）



この度、部会長に就任いたしました済生会滋賀県病院の松並です。昨年度は、委員として会議に参加し役員皆様との情報交換から多くのこと勉強させていただきました。今年度は、看護管理者間のさらなる連携、つくりむけ研修会の企画・運営、受託事業への協力に尽力して参ります。部会員皆様のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。（済生会滋賀県病院 副院長・看護部長）

熊本地震で被災されました皆様に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

一般社団法人滋賀県病院協会 会員一同

4月14日夜に発生しました一連の熊本地震直後に、滋賀県から被災地へ救護に向かわれた2病院から、大規模災害時の初動活動についてご寄稿を頂きました。

▼平成28年熊本地震

災害派遣精神医療チーム(DPAT)に参加して

滋賀医科大学 精神医学講座 栗本 直樹
滋賀医科大学医学部附属病院 精神科 中林 孝夫



平成28年4月14日・16日に熊本県で起きた最大震度7超の2度の地震は、熊本市や、震源に近い益城町、御船町等に甚大な被害をもたらした。被災者は身体ストレスのみならず心理ストレスも深刻で、発災後早期から精神・心理的サポートを行う必要性が指摘されていた。平成23年に起きた東日本大震災の教訓から、精神科医や看護師、心理士等からなるチームで、早期予防的介入から長期治療支援までの精神・心理支援を行うことを目的に組織されたのが災害派遣精神医療チーム(DPAT)である。当院は滋賀県の要請を受け、精神科医をリーダーとし看護師、精神保健福祉士からなるチームを2チーム結成し、平成28年5月6日・10日、同月12日・16日まで熊本で支援活動を行った。

第1班は震災支援者の支援を主たる目的として御船町にある民間精神科病院に派遣された。余震が持続している状況下で一般住民のストレスケアのニーズを最優先し、病院周辺の住宅へ戸別訪問を行った。他県から派遣されたチームによるアウトリーチ活動は、連続性、継続性が求められる精神医療においては当初困難が予想されたが、地元民間病院の精神保健福祉士と連携することで、円滑に活動することができた。3日間の実活動時間内に200戸余りの戸別訪問を行い、20名余りの要支援者を発見し、一定の



継続的な支援につなげることができた。

第2班はDPAT現地本部の業務支援を行った。現地本部は各地区で個別に活動する支援チームからの情報を集約して活動方針を決定し、全支援チームの活動を指揮する部門である。震災から約1ヶ月が経過し、支援に携わる保健師や行政職員も疲弊し、精神・心理的支援を必要とする時期であった。リアルタイムに変化する支援ニーズに応えつつ、地区ごとに異なる精神科医療の事情や復旧状況を考慮し、長期的な展望に基づいた「DPATが行うべき支援」を決定する事は極めて困難であったが、他県の支援チームとも協同し、一定の

▼平成28年熊本地震初動の活動報告



今回の熊本地震において、滋賀県の基幹災害医療センターである大津赤十字病院および滋賀県DMAT部会長の立場から、初動の報告をさせていただきます。

平成28年4月14日午後9時26分熊本で震度7の地震発生。厚労省DMAT事務局から近畿の災害拠点病院に派遣準備の要請が出ました。普段から震度5強以上の地震があれば滋賀県の担当者で連絡をとっており、今回も直ちに滋賀県の担当者でDMATに対する被災地のニーズは予想以上に大きく、円滑な活動を行うには情報連携の体制を確立する必要性が高い事が身に染みて理解できました。現場の戸別訪問支援と本部支援業務の両方を経験することができたチームは少なく、この貴重な経験が、滋賀県の防災体制のさらなる強化、そして日本の大規模災害時における精神医療支援体制の確立に活かせることを切に望む。



と、また、広範囲の連動で震災が起きる可能性も懸念されていることよりDMATチームを滋賀県内に待機させる必要性を考慮し、滋賀県として前日から準備していた当番病院の済生会滋賀県病院、大津赤十字病院、救急部長 松原 峰生



備していたという判断になりました。その後、DMAT事務局からの派遣準備要請も近畿に対しては解除となりました。翌晩(翌々日16日)午前1時30分過ぎに熊本県で頻回の震度7や6の地震がおき、再び厚労省のDMAT事務局より近畿の災害拠点病院にDMAT派遣準備の要請が出ました。しばらく情報収集のみ行っていました。頻回の強い地震があったため午前3時30分に大津赤十字病院のDMAT関係者に病院への自主登院を依頼し、いつでも出動できるように準備を始め、午前5時にほぼ準備完了しました。その後午前5時30分滋賀県庁の担当者で電話で協議を行いました。滋賀県からDMATが出動しても遠隔地であるため陸路では初動の活動に間に合うかどうか難しく、間に合わせるためにはすぐに自出できるDMATである事が必要であること、熊本赤十字病院の会議室で毛布にくるまってごろ寝となりました。翌17日午前7時の段階で熊本赤十字DMAT活動拠点本部に参集した医療チームは140を超えており、DMATチーム過多のな

か、当院のチームは宇城市内の災害拠点病院と避難所の情報収集をおこなっていました。18日は熊本赤十字病院DMAT活動拠点本部にて宇城、宇土、美里医療圏の災害拠点病院、避難所の情報収集とデータ集計の担当となりました。データ集計に時間がかかり、気付けば翌朝になっていました。19日朝の全体ミーティング後帰路につき、陸路とフェリーにて20日午前に帰院となりました。

今回の出動を通じて、遠隔地の災害の場合、陸路移動だけでも時間がかかり人も疲弊するため、初動においてチームメンバーには特にいろいろ考慮しなければならいと感じました。また、震災翌日には140を超えるDMATチームが被災地に参集していたこと、ならびに広範囲の連動で震災が起きる可能性も懸念されることより、DMATチームを滋賀県内に待機させながら計画的に派遣を行うことがとても重要であると認識しました。

平成28年度 滋賀県病院協会看護部長部会役員名簿

(平成28年4月1日～至：平成29年3月31日)

役職名	所属病院名	所属病院役職名	氏 名
部 会 長	済生会滋賀県病院	副院長・看護部長	松 木 睦 美
副 部 会 長	神崎中央病院	看護部長	平 木 聡 美
副 部 会 長	長浜市立湖北病院	看護局長	松 田 多 恵 子
委 員	打出病院	看護部長	松 岡 志 保
〃	大津赤十字志賀病院	看護部長	今 村 香 代 子
〃	琵琶湖病院	看護部長	寺 井 元 子
〃	滋賀県立成人病センター	看護部長	宮 下 孝 子
〃	守山市民病院	看護部長	石 井 淳 子
〃	甲南病院	看護部長	廣 瀬 京 子
〃	甲賀市立信楽中央病院	看護部長	加 藤 千 代 子
〃	東近江市立能登川病院	看護部長	谷 口 智 江
〃	彦根市立病院	副院長・看護部長	古 川 純 子
〃	高島市民病院	看護部長	小 谷 清 美

(神崎中央病院看護部長)

(長浜市立湖北病院看護局長)

副部会長に就任して

副部会長 平木聡美



副部会長に就任して

副部会長 松田多恵子



受章おめでとつづいいます

＊平成28年度春の叙勲
瑞宝双光章受章

(平成28年4月29日)



医療法人友仁会友仁山崎病院
元院長
山本 明氏
医療法人友仁会友仁山崎病院
の元院長 山本明先生は、この
度の春の叙勲で栄えある瑞宝双
光章を受章されました。

○看護功労者知事表彰
(平成28年5月10日)



医療法人明和会琵琶湖病院
看護師長
嶋 みよ子氏



市立長浜病院 副看護局長
芳沢 艶子氏



公立甲賀病院 前看護部長
芳尾 邦子氏



滋賀医科大学医学部附属病院
看護師長
細川 数子氏

(病院協会からの推薦者のみ)

新任病院長の紹介

(平成28年4月1日付)

○医療法人良善会ひかり病院 理事長・病院長
柳橋 健氏
○市立長浜病院 病院長
神田 雄史氏

第30回病院協会ソフトボール大会

1. 日時…平成28年9月22日(木・祝)
雨天の場合 9月25日(日)
1. 会場…高島市今津総合運動公園
※只今参加病院を募集中。
参加申込み締切日は7月12日(火)です。

ご逝去を悼む



故 青木 直亮 先生
(医療法人社団 瀬田川病院 元院長・理事長)
平成27年秋の叙勲で瑞宝小綬章
を受章されました青木直亮先生
が、平成28年5月28日にご逝去
されました。
ここに哀悼の意を表し、謹んで
ご冥福をお祈り申し上げます。

病院協会今後の行事予定

- 7月13日(水) 第4回理事会
- 7月14日(木) 第1回医事研究会(接遇研修) ビア
テラ海207会議室
- 7月15日(金) 第2回看護部長部会委員会(病院協
会会議室)
- 7月21日(木) 近畿病院団体連合会第1回委員会(滋
賀県私立病院協会担当 琵琶湖ホテ
ル)
- 7月23日(土) 感染防止対策地域連携加算の業務に
関する研修会(草津市立市民交流プラ
ザ)
- 8月17日(水) 第5回理事会
- 8月23日(火) 第1回感染対策研修会(看護職員対
象)(草津市立市民交流プラザ)
- 9月7日(水) 第6回理事会
- 9月16日(金) 第3回看護部長部会委員会(病院協
会会議室)
- 9月22日(木・祝) 第30回ソフトボール大会(今
津総合運動公園)
- 9月25日(日) (雨天の場合)
第2回感染対策研修会(看護職員対
象)(草津市立市民交流プラザ)
- 10月1日～2日(土・日) 第6回臨床研修指導医
講習会
- 10月19日(水) 第7回理事会
- 10月25日(火) 感染対策研修会(感染スキルアップ研
修会)(草津市立市民交流プラザ)

介護サービス事業者等感染管理研修会のお知らせ

当協会の感染管理ネットワークでは、県からの委託を受け感染予防・管理の地域的レベルアップを図ることを目的に、「介護サービス事業者等感染管理リスクマネジメント研修会」の開催や「介護施設への出前講座」を実施しています。
○研 修 会 下記2か所で開催されますが内容は同じです。受講しやすい会場でご参加ください。
第1会場：草津市立市民交流プラザ フェリエ南草津 5階「中会議室」
平成28年10月18日(火)
第2会場：彦根勤労福祉会館 4階「中ホール」
平成28年11月29日(火)
参加対象：県内介護サービス事業所等の管理者および感染管理責任者
研修時間：13：30～17：00(受け付け：13：00～)
参加費用：無料
○出前講座 介護施設へ出向いて感染対策の出前研修をします。
詳しくは、滋賀県病院協会までお問い合わせください。
TEL 077-525-7525 FAX 077-525-5859

感染制御ネットワークだより

(41)

「厚生労働省 薬剤耐性(AMR) 対策アクションプランについて」

滋賀県立成人病センター 臨床検査部 感染制御認定臨床微生物検査技師

西尾 久明

厚生労働省は、薬剤耐性菌の増加に歯止めをかけるため、2016年4月に薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの内容を公開しました。薬剤耐性は国際的な問題となっていることから、WHOは2015年5月に薬剤耐性に関するグローバル・アクションプラン

を採択し、加盟各国は2年以内に国家行動計画を策定するように求められてきたのが背景としてあります。このアクションプランの内容はWHOで採択された内容を基に、2016年から2020年の5年間の間に①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力、の6項目についてそれぞれ、目標や戦略、それに対する具体的な取り組みについて記載されています。特に本プランは、医療・介護分野だけではなく、畜水産、獣医療分野での耐性菌対策も盛り込まれた、いわゆるワンヘルスアプローチの考えに基づいて組み立てられています。さらに取組後の成果指標として、①2020年の黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率(MRSA)を20%以下に低下、②2020年の人口千人あたりの一日抗菌薬使用量を

2013年水準の3分の2に減少させるなどといった内容も盛り込まれています。また、滋賀県では2003年に厚生労働省のモデル事業としての「院内感染地域支援ネットワーク」を立ち上げ、2006年からは「滋賀県感染制御ネットワーク」として、地域の感染制御に寄与してきました。わが国のこれまでに行った数多くの取り組みにより、MRSA分離率は2009年の58.7%から2014年には49.1%まで低下したとの報告もされています。今回のアクションプランには、地域感染症対策ネットワーク(仮称)整備に向けた取組の推進についての記載があります。このアクションプランにおける地域感染症対策ネットワーク(仮称)整備を完遂するためには、人材確保のための教育体制と情報共有を一元化できるシステムづくりが必要であると思われます。そのためには、それぞれの分野で活躍できる専門家を養成し、現在の滋賀県感染制御ネットワークがイニシアチブをとることが必要であると考えます。私もこの取り組みの一助となるように、他職種の人々と協同で進めていきたいと思っています。

MIYAGAWA
INSATSU



Direction

伝えたい想いが伝わるようきめ細かに、
トータルにサポートします。

「より効果的な販促・広告戦略はないか?」「もっとデジタル媒体を活用していきたい」「紙媒体の特性を活かした印刷提案がほしい」「メッセージ性のある印刷物でしっかりとPRしたい」
お客様の様々なニーズや課題に、持てるノウハウや技術、経験やアイデアを駆使して最適なソリューションを提供するのが、私たちの「ディレクション」の力です。



宮川印刷株式会社

〒520-0846 滋賀県大津市富士見台3-18
TEL:077-533-1241 / FAX:077-534-0846
MAIL:info2@miyagawainsatsu.co.jp miyagawainsatsu.co.jp

2013年9月に規制緩和され「医療広告ガイドライン」が更新されました。医療広告も宮川印刷におまかせください。